平成 20 年 5 月号　№ 379

なかま

発　行
佐倉市立中央公民館
なかま編集係
〒285-0025
佐倉市鏑木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ　堀田正睦と吉田茂 …… 鈴木和夫　　現龍院 …… 越川キク子
3 ページ　碁 …… 鹿熊　勇　　東京マラソンボランティア日記 …… 斎藤　雄

富士山頂

原田和行

「台風の砦を富士山頂に作ると考えたらいかがでしょうか、台風という敵がこの砦の南方八〇〇キロまで近づけば、これを捕捉することができるのです」新田次郎著『富士山頂』の一節である。著者が気象庁在職中の経験を書いた小説である。

日本本土へ接近する台風は全国の測候所から情報を集めて東京気象庁で台風情報が出されていた。その間、台風は本土へかなり接近することもあった。富士山にレーダーを置いて全国に睨みを効かせ即時に台風を捕捉できるように、富士山頂三七七六メートルの剣ヶ峰に直径五メートルの大パラボラアンテナとそれを囲むドームが建設された。

工事は昭和三十八、三十九年の二年間。山頂の短い夏の間、気象条件が比較的良い七、八月に行われた。山頂への資材の荷揚げは強力（ごうりき）、ブルドーザーとヘリコプターであった。

山中湖ヘリポートと山頂との往復飛行時間は約十五分、山頂では空中停止して資材の取りおろしができるヘリの性能を活かした空輸作戦が行われた。使用機はアメリカ製シコルスキーS六二A型中型ヘリであった。

山頂の気流は悪く事前の綿密な計画の下、フライトはベテランパイロットで行われた。

当時ヘリ整備員だった私はヘリコプターのクルーとしてプロジェクトに参加する機会に恵まれた。若い整備員にはヘリの整備作業の他に山頂の交代勤務があり、飛行開始前に山頂の気象情報をヘリポートへ無線連絡し、又接近するヘリを誘導する役目があった。

山頂の生活は予想外に厳しかった。気圧が下界の約三分の二、酸素は七十パーセントと希薄なため米は高圧釜で炊き空腹を満たすだけの食事であった。唯一の楽しみは下界から空輸されてくる生鮮食品であった。

工事は計画通りに終了。昭和三十九年十月富士山レーダーの運用が開始された。この年は東京オリンピック開催の年でもあった。

三十五年間台風から日本を守った富士山レーダーは、その役割を気象衛星「ひまわり」へ譲り、平成十一年運用を終了した。

夏の登山シーズンには毎年約二十万人の人が山頂を目指す。若き日の思い出の富士山へ年一回登山をするのが私の習わしである。

（編集委員）

堀田正睦と吉田茂

国論が二分する中、条約締結に努力しその結果が対照的な二人の宰相がいる。全面講和と単独講和（多数講和）とが尖鋭に対立する中、サンフランシスコ講和条約締結を成功させ、戦後の経済発展と国際的立場の強化の基礎を作った吉田茂と、攘夷の嵐の中、日米修好通商条約締結に努力したが、調印前に老中を罷免させられた堀田正睦である。

徳川斉昭の朝廷を巻き込んでの条約阻止運動は、幕府と朝廷の対立を激化させた。特に「神の国日本に夷を住まわせ商売を許すとは」との孝明天皇の攘夷論は大きな力となった。朝廷と徳川斉昭を中心とした幕府内反対の渦中での条約調印の難しさは、サンフランシスコ講和条約の時の政府、経済界の支持と、進歩的文化人を中心とした反対の中での難しさでは、雲泥の差があると考えられる。しかも井伊大老による勅許なしでの調印と、清国のような苦しみもなく開国になった結果を考えると、堀田正睦の無念さが痛感される。

特に自ら勅許を得るため京都に行き、理路整然たる条理をもって朝廷と対応した姿勢は現代人の共感が得られると思う。佐倉に住み、西洋事情に精通、西洋医学導入、軍制改革等近代化への業績を知るにつれ堀田正睦の歴史的評価が低いのではと疑問に感じているのは私の僻目だろうか。老中罷免、晩年の処遇、西洋事情に精通していることを「蘭癖」といわれたこと等が負の評価に通じているかもしれない。

修好通商条約締結百五十周年に当たり、締結までの過程に光を当て歴史的評価を見直してほしいと願うものである。

（山王　鈴木　和夫）

現　龍　院

市民カレッジまちづくりのグループで、上野にある現龍院を訪ねました。

ここには、五代目佐倉藩主で堀田家初代の藩主となった堀田正盛公のお墓があります。

正盛公は、義理の祖母にあたる春日局の力添えで将軍家光に仕え、異例の出世で当時佐倉藩十五万石の大名にまでなった人物ですが、家光の死去に伴い殉死を遂げ、ここ現龍院に葬られました。

高台にたつお墓は、遥か彼方に佐倉を望む方向で建てられたとか、佐倉の堀田家廟所への転葬の計画もあったそうですが実現しませんでした。

お墓に手を合わせながら、「私達は佐倉から参りました。佐倉へお帰りになりたいですか」と思わず呟いてしまいました。三百五十六年もの間ふるさとを見つめ続けているお墓が、とても哀しそうに思えて涙がこみあげました。

「これからも佐倉を見守って下さい」ともう一度手を合わせて上野を後にしました。

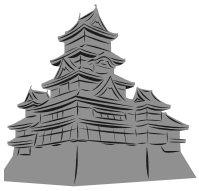
帰りの途々、深い歴史と、やさしい自然に恵まれた佐倉の町を誇らしく思いながら、とても清々しい気持ちで帰って参りました。

まちづくりで取り組んだ堀田家廟所のお掃除、私はまだ一年にも満たないのですが、先輩方と共にこれからも続けて行くつもりです。

佐倉に住んで五年目です。最初はちょっと寂しい町かなとも思ったのですが、この静かさもなかなか良いものです。

自分の町を誇りに思い、愛せる事こそ住む者の幸せだと思います。

（表町　越川キク子）



碁

私は余暇には碁会所に行くことが多い。そこには喫煙席が作られているが、空間が区切られているわけではないのでその効果はあまり期待できないのではないかと思う。

さて碁会所には現役サラリーマンや弁護士、医者、定年退職者等々のいろんな職業や経歴の人がやってくるわけである。そういう人達と年齢差や職業など種々の垣根を超えてつきあいができるのは大変嬉しいことである。

碁会所に来る大部分の人は強くなりたいと願って対局しているが、いろんな人と対局してみると大体次の三つのタイプに分かれる。

第一は楽しむ碁―高齢者に多く毎回同一者と対局し勝敗にはこだわらず楽しく碁が打てればそれで良い。夕刻、決まった時間に帰宅する。

第二は上達のための碁―碁が好きで好敵手より強くなりたいという願望が極めて強い。研究熱心で終局してからも碁石を並べ直して検討、反省する。自分の実力より上位者との対局を好む。

第三は勝つための碁―もちろん勝敗にこだわった碁である。碁会所ではほぼ同じ力のもの同士が対局するので勝ち越すのは容易なことではない。負け越すと閉店になっても勝ち越すまで対局したいというタイプである。長考することが多く体力が要る。

このように碁会所にはいろんなタイプの人、老若男女、性格もさまざま、歩いている人生もいろいろである。

これからも多くの人との出会いを大切に、面白い碁、楽しい碁を打っていきたいと考えています。

（白銀　鹿熊　勇）

東京マラソン ボランティア日記

二月十七日、澄みきった青空の下東京マラソンが開催された。活動二年目。昨年は十キロフィニッシュ地点で一般ボランティア、そして今年はフルマラソンフィニッシュ会場で完走者サービス。ヒートジャケット配布サブリーダーである。

リーダー、サブリーダーは朝八時半に集合。ビックサイト東京湾沿い、寒い。サービスエリア責任者からの点呼の後、リーダーを中心に五組一緒に準備を開始、ダンボール一箱五００着入りのジャケットを次々に取り出しているうちにもう汗だらけ。

ランナーは都庁前を九時十分にスタートしている。「早く早く」。十一時頃より二班に分かれ昼食を取る。弁当持参か食堂に向かう仲間もいる。私たちの後に、エイドステーション・チップ回収・完走メダル配布と続き、忙しく動きまわっている。

正午を過ぎゴールしたランナーが次々に入って来た。基本はジャケットを着せるのに、渡すだけで精一杯のピークが来た。一ときごった返して誘導がきかず、それでもどうにか終了、最後のランナーが駆け込んで来たのは午後四時半を過ぎていた。

四二・一九五キロを走りぬいて笑っている人、感激して涙を流している人、足を引きずっている人…。私たちボランティアに対して「ありがとう」「サンキュー」の連発である。

リーダー・サブリーダーには活動報告書の提出が課せられている。私は一緒に活動したボランティアのために「あなたの笑顔が力になる」、と感謝のことばを添えて、数日後ファックス送信した。

（石川　斎藤　雄）

５月の黒板

★★★　『なかま』原稿募集のお知らせ　★★★

『なかま』の 2･3 面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。

[原稿規定] 字　数　650 字（13 字×50 行）以内。ワープロによる原稿（縦書き）でも結構です。

内　容　随筆･･･日常の出来事、生活の中で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などご自由にお書きください。

◎ 『なかま』に対するご意見・ご感想などもお待ちしています。

◎ いただいた原稿は、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ　佐倉市立中央公民館　（第２・第４月曜日は休館日です）
電話　４８５－１８０１
ＵＲＬ　http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm

さくら道

文部科学省が、今年二月に小中学校の学習指導要領改定案を公表した。

新聞には、「脱ゆとり授業時間増」の見出しで概要が載っていたが、主要教科（国語・算数・数学・理科・社会・英語）と体育の授業時間を約一割増やし、学習項目など内容も理数を中心に約四十年ぶりに増やしている。

「詰め込み教育」から「ゆとり教育」へといわれた前回の改定で、学習内容が約三割削減された現行の指導要領下での学力低下批判を意識した改定となっているが、「詰め込み」復活を懸念する記事もみられた。

考える時間も与えない「詰め込み」では困るが、考えるためには必要な知識が不可欠である。必要な事柄は、確り詰め込んで、知識として身につけなければならない。

ときあがき

「病気でもしているんじゃないの」。心配そうな叔母の声。あわてて長い間の無沙汰を詫びる。「体に気をつけるんだよ」。叔母はどこまでも優しい。今の内に聞いておきたい話も聞いてもらいたい話もある。二人だけの小さな旅を計画しよう。幸せな余韻の中、素直になっている自分に気づく。

野も山もとりどりの緑が美しい。私は、個性を主張しながら健気に生きる野の草花が愛おしくて堪らない。

この愛おしさは優しさに通じるはず。今は叔母の足元にも及ばない私だが、心のこもった優しい言葉がけや態度で人様に接していきたいと思う。

分かることとできることは違うという現実を何とか克服しながら…。

（松山）